「本校第３学年生徒のボランティア活動について」　宮城県南郷高等学校

１．活動の概要

（１）はじめに

本校では，生徒の多くが個人レベルで春休み中にボランティア活動を実施していたことと，生徒および職員の間に困難な状況にある地域の復興支援を行いたいという気運が高まったことから，以下のとおりボランティア活動を行った。

なお，今回の活動の様子はマスコミ（河北新報・大崎タイムス）でも取り上げられた。

（２）目的

「みやぎの志教育プラン」に基づき，今回の東日本大震災により甚大な被害を受け，生活が困難で支援が必要な地域に赴き，復興に向けてボランティア活動をすることで，社会の中で果たすべき自己の役割を考え行動できる力を養うとともに，社会の一員としての自己の生き方を考えさせる。

（３）期日：平成２３年４月２８日(木)

（４）対象：第３学年生徒６７名

（５）引率者：正副担任等

（６）活動地域:東松島市(東松島市ボランティアセンターと連携)

（７）活動内容：道路清掃，物品の搬出入等

（８）日程

時間	内容	備考
8:40	ホームルーム	駐車場
9:00	結団式 学校出発	校長激励
9:40	現地到着	東松島市ボランティアセンター
9:40～12:00	諸注意　活動開始	グループごと活動
12:00～12:40	昼食・休憩	
12:40～15:00	活動再開 活動終了　諸連絡	
15:15	現地出発	
15:45	学校到着　解団式	

（９）交通手段：貸切バス

(10)持参物品：昼食，飲料水，軍手，タオル，マスク等

＊活動に必要な物品は公用車で搬送する。

(11)服装：ジャージ，運動靴(長靴)，帽子，天候に応じて防寒ジャンパー等

(12)生徒の安全確保について

①生徒への事前指導を十分に行い，事故防止に努める。

②ボランティアセンターとの事前打ち合わせを詳細に行い，地震などの災害が発生した場合の安全確保・避難誘導に万全を期す。

③活動中に，強い地震が発生したり，地震による津波のおそれが生じたりした場合は，すぐに活動を中止して安全な場所に避難する。

④不測の事態に備えて保険に加入する。

(13)経費

教育振興会からの補助

(14)保護者との連携

①保護者の理解と協力を求めるため，文書により本活動を周知する。

②保護者から参加承諾書の提出を求める。保護者の承諾が得られない生徒については，学校での奉仕活動等を行う。

(15)その他

①本活動は特別活動(ホームルーム活動)に位置づける。

②生徒による体験発表の場を設ける。

（言語活動：感想をまとめる。発表しあう。）

（現地スタッフとの綿密なミーティング）

２．活動の成果等

（１）生徒の変容

甚大な被害に遭った地域の方々の復興支援のため，第３学年生徒全員が思いを一つにして活動にあたった。生徒の中には，被災して家を失い避難所で過ごしている者もいた。自分自身も困難な状況にあったにもかかわらず，その生徒も含め全員で，被災地・東松島市のボランティア活動を行ったことはとても意味のあることである。今回の活動を通して，生徒たちは，社会の一員として自己の果たすべき役割を考えて行動することができたようである。活動しながら「志教育」の３つの視点（「かかわる」「もとめる」「はたす」）を意識していたことが，活動後のアンケートから読み取れる。

（２）アンケート結果(数字は%)

Ｑ１　なぜボランティア活動をしようと思ったか。

①ぜひしたいと思ったから。	６１
②成績に影響すると思ったから。	３
③先生に言われたから。	５
④授業がなくなるから。	６
⑤なんとなく。	２３
⑥無回答	２

Ｑ２ 参加してどのように感じたか。

①楽しかった。	１７
②気分が良かった。	３３
③達成感を得られた。	４７
④つまらなかった。	０
⑤時間の無駄だった。	０
⑥何も感じなかった。	３

Ｑ３　活動する際に気をつけたこと。

①言葉遣い	３９
②態度	２５
③服装	５
④会話の内容	１５
⑤安全	１４
⑥特になし	２

感想

○今回は地震当日から１ヶ月以上も後に行ったためか，ほとんどの家で家財道具などが運び出されていて，道路は車が走るところや人が歩くところは清掃されていました。もちろん，それでもまだしなくてはいけないことは沢山ありましたが，一番ボランティアの手が必要だったときに活動できなかったのではないかと思うと少し残念でした。

○一件目のお宅の前のヘドロ掃除をしている時，「近くの公園もやってもらえたら助かるし，子どもたちが公園で遊ぶのを楽しみにしている」と言われたのに，時間の関係で公園のヘドロ掃除をすることができませんでした。子どもたちの思いを叶えてあげられなかったのが心残りです。できれば，もう一度行き，今度は公園にあるヘドロ掃除をしたいと思いました。同じ場所ではなくてもいいのでもう一度活動したいです。

○ボランティア活動は，思ったより大変でした。しかし，私たちより大変な思いをしている現地の方から「ありがとう」などと言われて，とてもうれしく思いました。これからも役に立てることがあるなら積極的に取り組もうと思いました。

（３）今後の課題

活動後の生徒から，「このような活動をもっと行いたい」という声が寄せられた。ボランティアに限定することなく，体験的な活動を充実させるように学年運営計画の微調整が必要である。その一例として，年間ホームルーム活動計画を組み直し，５月２６日(木)に，第３学年生徒と職員で田植えを行った。餅米を植え，育て，収穫し，東松島市で餅つきをしようという企画である。お礼の手紙を学校に送ってくれた地域の人々に，つきたての餅を提供する予定である。

また，活動を通して学んだこと，考えたことを，自分の人生観や価値観に結びつけられない生徒が多いので，その部分を接続させる手立てや方策も検討しなくてはならない。

（道路に残るヘドロ除去に黙々と取り組む生徒）